

整理番号 01-00342

発送番号 103376 1/E
発送日 平成18年 3月28日

拒絶査定

特許出願の番号	特願2001-316701
起案日	平成18年 3月 1日
特許庁審査官	宇多川 勉 3125 4L00
発明の名称	半導体装置
特許出願人	ローム株式会社
代理人	藤河 恒生 (外 2名)

この出願については、平成17年10月21日付け拒絶理由通知書に記載した理由によって、拒絶をすべきものである。

なお、意見書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

備考

この出願については、平成17年12月27日付けで手続補正がなされたが、この補正是本査定と同日付けで補正却下されている。

この査定に不服があるときは、この査定の謄本の送達があった日から30日以内（在外者にあっては、90日以内）に、特許庁長官に対して、審判を請求することができます（特許法第121条第1項）。

（行政事件訴訟法第46条第2項に基づく教示）

この査定に対しては、この査定についての審判請求に対する審決に対してのみ取消訴訟を提起することができます（特許法第178条第6項）。

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。
認証日 平成18年 3月28日 経済産業事務官 平瀬 恵美子



整理番号 01-00342

発送番号 103375 1/
発送日 平成18年 3月28日

補正の却下の決定

特許出願の番号	特願2001-316701
起案日	平成18年 3月 1日
特許庁審査官	宇多川 勉 3125 4L00
発明の名称	半導体装置
特許出願人	ローム株式会社
代理人	藤河 恒生 (外 2名)

結論

平成17年12月27日付け手続補正書でした明細書又は図面についての補正是、次の理由によって却下する。

理由

上記手続補正書でした請求項1、6についての補正是限定的減縮を目的としている。

ここで、補正後の請求項1に係る発明と先の拒絶理由通知で引用した刊行物（引用文献1、2）と比較すると、本発明は、初段のMOSキャパシタの面積が中段以降のMOSキャパシタの面積より大きい点で相違する。

しかし、特開平09-008229号公報の【0046】～【0049】段落には、チャージポンプにおいて、昇圧速度を上昇させるために、初段のキャパシタを後段のキャパシタよりも大きくする技術が開示されており、引用文献1、2において、当該技術を用いることは当業者が容易に想到し得ることである。

また、引用文献1において、ゲート電極106は細長く形成されているため、請求項6における補正によっても、本発明の進歩性を肯定することはできない。

よって、補正後の請求項1～6に係る発明に進歩性があるものとは認められないため、当該補正後の請求項1～6に係る発明は、特許法第29条2項の規定に基づき独立して特許を受けることができない。

したがって、この補正は、特許法第17条の2第5項において準用する同法第126条第5項の規定に違反するものであるから、同法第53条第1項の規定により上記結論のとおり決定する。

整理番号 01-00342

発送番号 103375 2/E
発送日 平成18年 3月28日

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。
認証日 平成18年 3月28日 経済産業事務官 平瀬 恵美子

